



## 概要

岡山県玉野市と香川県高松市を結ぶ「宇野高松航路」は、明治43年に旧国鉄宇高航路として開設され、その後民間会社数社も参入し、長きにわたり玉野市と高松市を直接結ぶ唯一の交通手段として四国の発展に多大な役割を果たしてきた。しかし、昭和63年の瀬戸大橋の開通に伴い、旧国鉄宇高連絡船は廃止となり、民間会社も減便等を行い、現在は、国道フェリー(株)及び四国フェリー(株)が、合計38便(往復)／日を終日運航している。宇野高松航路を将来にわたって維持するため、同航路の利用実態調査(特に収入の約7割を占める貨物の利用実態調査)やニーズ調査、分析等を行った上で、持続可能な運航形態等について検討を行う。

### ○地域公共交通の現況

宇野高松航路利用者は、平成18年度から20年度の3年間では、旅客102万人～106万人 自動車72万台～81万台で推移していたが、21年度では、航送台数が前年度比68.3%、旅客輸送量が前年度比82.6%と大きく減少した。

### ○地域公共交通の課題

平成22年2月、国道フェリー(株)及び四国フェリー(株)から、宇野高松航路の事業廃止届が四国運輸局に提出され、その後、当該届は取下げられたところであるが、同航路の持続可能な運航を確保することが喫緊の課題となっている。

### ○調査の主な内容

運航合理化調査

利用促進調査

